

歯科医学総合講義 3

年次	学期	学則科目責任者
3年次	後学期	3年次学年教育主任

学修目標 (G I O) と単位数	<ul style="list-style-type: none"> ・単位数：2単位 ・学修目標 (G I O)： 社会の要請に応えることができる歯科医師となるための基礎知識と応用する柔軟性を身につけ、これまでの講義や実習で学んだ内容を統合および整理する。3年次後期は6年間の学修の五合目に至るという自覚を高め、2年次科目の基本項目を振り返りながら、3年次の学修項目の総まとめをする。
担当教員	久山 佳代、平山 聡司、平塚 浩一、木本 統、多田 充裕、小林 平、有川 量崇、加藤 治、谷本 安浩、大久保 昌和、中山 洋平、山根 潤一、齋藤 真規、松野 昌展、竹内 麗理、河野 哲朗、川島 雄介、神尾 直人、末光 正昌、齋藤 美雪
教科書	履修した科目の教科書および参考資料など
評価方法 (E V)	歯科医学総合講義3の定期試験および追再試を実施する。平常試験は1回行う。授業時間数の1/5以上欠席した場合、再試験を受験できない。
学生へのメッセージ オフィスアワー	歯科医師になるために求められる知識のうち、3年次までの学びを総括・整理する。教科書および参考図書は、2年次および3年次の各科目で使用したものを使用する。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/09/28 (木) 1時限 09:00~10:30	歯科医学総合講義 3 (薬理学1、薬理学2)	<p>【授業の一般目標】 薬理作用・薬物と医薬品・薬物動態・薬物治療の基本的知識 (薬理学1) を理解し、薬理学2で学修した様々な疾患に適用する薬物の基本的な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬理作用・薬物と医薬品・薬物動態について説明できる。(薬理学1) 2. 薬物治療の基本的知識を説明できる。(薬理学1) 3. 中枢神経系・末梢神経系に作用する薬物を説明できる。(薬理学2) 4. 血液に作用する薬物を説明できる。(薬理学2) 5. 呼吸器系・循環器系に作用する薬物を説明できる。(薬理学2) 6. 抗菌薬・消毒薬を説明できる。(薬理学2) 7. 口腔領域に現れる副作用・有害作用を説明できる。(薬理学2) <p>【準備学修項目と準備学修時間】 薬理学1、薬理学2で学んだ学修項目 準備学修期間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 ヒ 薬物療法 e 薬物の作用部位</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 9 主要な症候 エ 薬物の有害事象による口腔症状 a 多形 {滲} 出性紅斑・歯肉肥厚<歯肉増殖>・歯の着色・唾液分泌量減少・唾液分泌量増加・味覚異常・顎骨壊死・抗腫瘍薬による口内炎、菌交代現象<菌交代症></p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 生体と薬物 C-5-2) 薬理作用 *③薬物の作用機序を説明できる。</p>	山根 潤一
2017/10/05 (木) 1時限 09:00~10:30	歯科医学総合講義 3 (解剖、組織・発生学)	<p>【授業の一般目標】 歯科医学に必要な頭頸部および胸腹部内臓の各器官系の構造 (マクロ・ミクロ) を学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞の構造を説明する。 2. 組織の構造を説明する。 3. 各器官系 (消化器系・呼吸器系・泌尿器系) の構造を説明する。 4. 調節系 (神経系・内分泌系) の構造を説明する。 5. 循環器系の構造を説明する。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 人体を構成する4種の組織の分類と特徴を確認する。 解剖学の教科書や人体解剖学図譜で各器官系の構成を確認する。 60分</p>	松野 昌展 河野 哲朗

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/10/05 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (解剖、組織・ 発生学)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室その他</p> <p>【学修方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 e 器官系 (骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (1) 組織 (上皮組織、結合組織、筋組織) 【神経組織の構造と機能はC-2-3) - (5) 神経系の項を参照】 *①上皮を形態的および機能的に分類できる。 C-2-3) - (2) 運動器系 *①生体を構成する主な骨と筋を列挙できる。 C-2-3) - (3) 循環器系 *①心臓の構造と機能を説明できる。【心臓の刺激 (興奮) 伝導系、心筋の特徴、標準的心電図波形および心音を含む。】 *⑤主な動脈と静脈を列挙できる。 C-2-3) - (5) 神経系 *①脳神経の種類、走行、線維構築および支配領域を説明できる。 *④脳と脊髄の基本的構造と機能を説明できる。【主要な自律機能 (呼吸、循環、体温) の調節中枢の働きを含む。】 C-2-3) - (6) 消化器系 *①消化管 (咽頭、食道、胃、小腸、大腸) の基本構造と機能を説明できる。【腸管平滑筋の特徴、消化液、消化管ホルモンの機能をを含む。】 *②肝臓の構造と機能および胆汁の分泌を説明できる。 C-2-3) - (7) 呼吸器系 *①気道系 (鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管、気管支) の構造と機能を説明できる。 *②肺の構造と機能を説明できる。【内呼吸、外呼吸および呼吸運動の機序とその調節系を含む。】</p>	松野 昌展 河野 哲朗
2017/10/12 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (病理学1, 病 理学2)	<p>【授業の一般目標】 病理学総論の概念 (病理学1) を理解し、病理学2で学修した疾患の病因と病態を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 6大疾患に分類できる (病理学1)。 2. 循環障害、代謝障害、炎症、腫瘍、奇形で学んだ基本的用語を説明できる (病理学1)。 3. 口腔奇形・嚢胞を列挙できる (病理学2)。 4. 硬組織疾患、歯髄・歯周疾患の形態学的所見を説明できる (病理学2)。 5. 腫瘍を分類し、病理組織学的所見を説明できる (病理学2)。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 病理学1、2で学んだ学修項目</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室その他</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 a 健康・疾病の概念</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 ア 先天異常・後天異常 イ 歯の硬組織・歯髄・根尖歯周組織・辺縁歯周組織の疾患 ウ 口腔粘膜の疾患 カ 嚢胞 キ 腫瘍 ケ 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-5) 腫瘍 *①腫瘍の定義を説明できる。 C-4-4) 炎症 *①炎症の定義を説明できる。【発症機序を含む。】 C-4-3) 循環障害 *①虚血、充血およびうっ血の徴候、原因および転帰を説明できる。</p>	久山 佳代
2017/10/19 (木) 1時限	歯科医学総合講義 3 (衛生・公衆衛	<p>【授業の一般目標】 衛生・公衆衛生学で学修した健康を左右する環境や健康に関わる地域の役割を</p>	有川 量崇

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
09:00～10:30	生学, 医学統計学)	<p>理解し、医学統計学で学修した疫学の方法を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 健康の概念を理解できる。 2. 疫学の定義および方法を説明できる。 3. 健康と環境 (空気・水・地球環境・廃棄物等) について説明できる。 4. 感染症について分類し予防方法について説明できる。 5. 食品と健康について説明できる。 6. 統計解析、保健統計について理解できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 衛生・公衆衛生学、医学統計学で学んだ学修項目</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室その他</p> <p>【学修方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 ア 健康増進と疾病予防 c ヘルスプロモーション、オタワ憲章</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 イ 地域保健 a 地域保健法、地域保健体制 b 健康増進法 歯科医学総論 総論Ⅱ 健康管理・増進と予防 2 母子保健、母子歯科保健 オ 母子歯科保健の意義 3 学校保健、学校安全、学校歯科保健 イ 学校保健の領域・内容 4 産業保健、産業歯科保健 カ 産業歯科保健活動 9 人口統計と保健統計 イ 保健統計 10 疫学とその応用 ウ 統計解析</p>	有川 量崇
2017/10/26 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (予防歯科学)	<p>【授業の一般目標】 予防歯科学で学修した歯・口腔の健康と予防を理解し、各ライフステージの予防歯科サービスの基本的な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔清掃法について理解できる。 2. 歯磨剤と洗口剤について説明できる。 3. 齲蝕の予防について理解できる。 4. ライフステージごとの口腔保健管理について理解できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 予防歯科学で学んだ学修項目</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室その他</p> <p>【学修方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅰ 歯科疾患の予防・管理 1 齲蝕の予防・管理 オ 齲蝕の予防手段</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅰ 歯科疾患の予防・管理 1 齲蝕の予防・管理 ア 齲蝕の原因 イ 齲蝕リスク検査・評価 キ フッ化物の応用法 2 歯周病の予防・管理 ア 歯周病の病因 4 口臭の予防・管理 ウ 口臭の予防・治療 6 保健指導 ア 口腔清掃の意義 イ 口腔清掃法 オ 禁煙指導・支援</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-3 予防と健康管理 B-3-2) 口腔疾患の予防と健康管理 *①主な口腔疾患 (う蝕、歯周疾患、不正咬合) の予防を説明できる。【生活</p>	有川 量崇

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/10/26 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (予防歯科学)	<p>習慣病の改善指導を含む。】 *②う蝕予防におけるフッ化物の応用方法を説明できる。【予防填塞とブラークコントロールを含む。】 *③ライフステージにおける予防を説明できる。 *④集団レベルの予防と健康管理 (地域歯科保健、学校歯科保健、産業歯科保健) を説明できる。 *⑤口腔ケアの意義と効果を説明できる。</p>	有川 量崇
2017/11/02 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (医療行動科学 3, 4, 5, 6, 細菌学)	<p>【授業の一般目標】 細菌学：微生物と感染症の関連性および免疫の仕組みを学修する。 医療行動科学：全人的歯科医療を実践するために患者の権利と尊厳 (医療行動科学3, 4) を理解し、医療行動科学5, 6 で学修した患者-医療者関係における医療者の役割を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 細菌, 真菌およびウイルスの基本的性状を説明できる。 2. 細菌, 真菌およびウイルスにおける感染症について説明できる。 3. 免疫機構について説明できる。 4. アレルギーについて説明できる。 5. 医療プロフェッショナリズムについて説明できる。 6. 医の倫理に関する規範・国際規範を説明できる。 7. インフォームドコンセントの定義と重要性を説明できる。 8. 患者-医療者関係での医療者の役割を説明できる。 9. 一般歯科医院における歯科訪問診療・在宅歯科医療について概説できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 細菌学：①細菌, 真菌およびウイルスの病原性と感染症 ②自然免疫, 獲得免疫およびアレルギー 60分 医療行動科学：①医の倫理に関する規範・国際規範 ②インフォームド・コンセント 40分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室その他</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅵ 病因、病態 6 感染症、アレルギー、免疫疾患 イ 病原微生物</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅵ 病因、病態 6 感染症、アレルギー、免疫疾患 ア 感染の概念 エ 感染症 オ 免疫不全 カ 自己免疫疾患 キ アレルギー反応 (過敏症)</p> <p>必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム ア 医の倫理、生命倫理 a 患者の人権と医療 b ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、ヒポクラテスの誓い イ 歯科医師と患者・家族との関係 a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅰ 保健医療論 4 地域保健、地域医療 コ 在宅医療、在宅歯科医療</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 感染と免疫 C-3-1) 感染 *①細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫の形態学的特徴と基本的性状を説明できる。 *②細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染機構とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。 C-3-2) 免疫 *①自然免疫と獲得免疫について説明できる。 *②細胞性免疫と体液性免疫について説明できる。【抗体の種類と特徴を含む。】 *⑤アレルギーの分類を説明できる。【発生機序を含む。】 *⑥免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。 A 基本事項 A-2 医の倫理 *①医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。 *②医の倫理に関する規範・国際規範 (ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等) を概説できる。 A-3 歯科医師の責務 *①患者との信頼関係を築くことができる。 A-4 インフォームドコンセント *①インフォームドコンセントの意義と重要性を説明できる。</p>	齋藤 真規 多田 充裕
2017/11/09 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科補綴学1・ 全部床義歯補綴学)	<p>【授業の一般目標】 歯の欠損、顎骨・顔面の欠損に伴う障害の種類と病態に応じた可撤性義歯の設計と製作過程を説明できる。</p>	木本 統

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/11/09 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科補綴学1・ 全部床義歯補綴学)	<p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯の欠損、顎骨・顔面の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。 2. 全部床義歯の治療手順を説明できる。 3. 全部床義歯の技工操作を説明できる。 4. 全部床義歯装着装着後のトラブル解決方法を述べることができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 無歯顎補綴治療学 講義資料</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室その他</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p>	木本 統
2017/11/16 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科補綴学1・ 部分床義歯補綴学)	<p>【授業の一般目標】 歯の欠損、顎骨・顔面の欠損に伴う障害の種類と病態に応じた可撤性義歯の設計と製作過程を説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯の欠損、顎骨・顔面の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。 2. 可撤性義歯の支持機構、把持機構および維持機構を説明できる。 3. 可撤性義歯の構成要素を説明できる。 4. 可撤性義歯の製作過程を説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 歯学生のバーチャルデンチャー 講義資料</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室その他</p> <p>【学修方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 5 部分床義歯による治療 ア 義歯の設計</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (2) 可撤性義歯 (部分床義歯、全部床義歯) *①歯の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。 *④可撤性義歯の支持機構、把持機構および維持機構を説明できる。 *⑥可撤性義歯の構成要素を説明できる。 *⑩可撤性義歯の製作過程を説明でき、基本的手技ができる。 *⑫可撤性義歯の設計原理を理解し、口腔内診察、検査、診断模型およびエックス線写真等により適切に設計を行うことができる。</p>	大久保 昌和
2017/11/30 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科材料学1、 歯科材料学2)	<p>【授業の一般目標】 歯科材料が歯科医療に果たす役割 (歯科材料学1) について理解し、さらに歯科材料の性質、成形法および臨床における応用 (歯科材料学2) に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科生体材料・歯科材料および歯科用器械に関して、それらの種類および性質について説明できる。 2. 歯科生体材料・歯科材料および歯科用器械に関して、それらの臨床応用について説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：歯科生体材料・歯科材料の素材別による区分および臨床との係わり合いについて教科書および配布プリントを確認する。 準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室その他</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 マ 歯科材料 a 基本的性質</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論XI 歯科材料と歯科医療機器</p>	谷本 安浩

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/11/30 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科材料学1、 歯科材料学2)	<p>1 0 レジンの成形技術・機器 ア 加熱重合 イ 常温重合 (流し込み成形) 1 1 セラミックスの成形技術・機器 ウ セラミックスの成形加工 1 2 金属の成形技術・機器 ア 鋳造工程 7 予防填塞・成形修復・歯内療法用材料 ア コンポジットレジン</p> <p>【コアカリキュラム】 D 歯科生体材料と歯科材料・器械 D-1 素材と器械・器具の所要性質 *④歯科用器械・器具の用途と特徴について説明できる。 D-2 成形法と成形用材料 *②歯冠修復・義歯の製作に必要な材料の特性を説明できる。 *⑥レジンの重合、金属の鋳造・熱処理およびセラミックスの加工・焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。【歯科用レジン・金属・セラミックスの種類、用途および特性を含む。】</p>	谷本 安浩
2017/12/07 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科補綴学1・ クラウンブリッジ 補綴学)	<p>【授業の一般目標】 歯や歯質の欠損に伴う、障害の種類と病態に応じたクラウンの選択と製作過程ならびに口腔内装着の手順を説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯や歯質の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。 2. クラウンの要件について説明できる。 3. クラウンの分類について説明できる。 4. クラウンの製作過程を説明できる。 5. クラウンの装着過程を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 クラウンブリッジ補綴学第5版 講義資料</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室その他</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 4 クラウンブリッジによる治療 ア 歯冠補綴装置の選択</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 3 補綴装置の要件 ア 生物学的要件 イ 機能的要件 4 クラウンブリッジによる治療 コ ワックスパターン形成 ス 口腔内試適 セ 装着 ソ 患者指導</p>	小林 平
2017/12/14 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科放射線学 1, 2)	<p>【授業の一般目標】 2年生、3年生で学んできたことを復習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. エックス線の発生と歯科用エックス線撮影装置について説明できる。 2. 放射線の影響、放射線の防護と管理について説明できる。 3. 放射線の生物学的影響について説明できる。 4. 放射線治療について説明できる。 5. 口内法エックス線検査について説明できる。 6. パノラマエックス線検査について説明できる。 7. 口外法エックス線検査について説明できる。 8. 歯科用コーンビームCTについて説明できる。 9. CT、MRI、超音波検査について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：放射線学1および放射線学2で配布したプリント、放射線学実習書 準備学修時間：3時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室その他</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 1 検査の基本 オ 画像検査</p>	川島 雄介

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/12/14 (木) 1時限 09:00~10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科放射線学 1, 2)	<p>a エックス線撮影 (口内法、パノラマエックス線撮影、CT、歯科用コーンビームCT、造影検査)</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-2) 画像検査 *①放射線の種類、性質、測定法と単位を説明できる。 *②放射線の人体 (胎児を含む) への影響の特徴 (急性影響と晩発影響等) を説明できる。 *③放射線防護の基準と方法を説明できる。 *④エックス線画像の形成原理を説明できる。【画像不良の原因を含む。】 *⑤エックス線装置とその周辺機器の原理と管理技術を説明できる。 *⑥口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影の種類および適応を説明できる。 *⑦口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影を行い、読影できる。 *⑧頭部エックス線撮影の種類および適応を説明できる。 *⑨造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法 (CT)、磁気共鳴撮像法 (MRI) および核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。</p>	川島 雄介
2017/12/21 (木) 1時限 09:00~10:30	歯科医学総合講義 3 (生化学・生理 学)	<p>【授業の一般目標】 機能系基礎医学である生理学・生化学の理解を深めるために、全般的に総復習を行い全体の流れを学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 五大栄養素と身体をつくる成分を説明できる。 2. 細胞分裂や遺伝子を説明できる。 3. 炎症の成り立ちと歯周病の成立を説明できる。 4. 情報伝達機構を説明できる。 5. 歯と歯周組織の特徴、構成成分を説明できる。 6. う蝕の成り立ちを説明できる。 7. 血圧調節機構を説明できる。 8. 自律神経の作用を臓器別に説明できる。 9. 興奮性細胞における活動電位の違いを説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学習項目；二年生で配布したプリントの総復習 準備学習時間；4時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室</p> <p>【学修方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 e 器官系 (骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 a 遺伝子、染色体 b 細胞・細胞内小器官の構造・機能 イ 口腔・顎顔面の構造・機能 b 口腔の機能 (咬合、咀嚼、嚥下、呼吸、発音と構音、消化、皮膚・粘膜の体性感覚、味覚) 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 1 細胞、組織 ア 生体を構成する基本物質 イ 細胞の構造・機能 ウ 細胞間情報伝達機構 エ 遺伝子、遺伝 総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 4 歯・歯周組織の構造と機能 キ 歯根膜 <歯周靭帯> ク 歯槽骨</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-1 生命の分子の基盤 C-1-1) 生命を構成する基本物質 *①アミノ酸とタンパク質の構造、機能および代謝を説明できる。 *④生体内におけるエネルギー利用を説明できる。 C-1-2) 遺伝子と遺伝 *①遺伝子 (染色体) の構造とセントラルドグマを説明できる。 *③転写と転写調節の機序を説明できる。 C-1-3) 細胞の構造と機能 *①細胞膜、核および細胞内小器官の構造と機能を説明できる。 *③細胞周期と細胞分裂を説明できる。 C-1-4) 細胞のコミュニケーション *①細胞の接着装置、細胞間と細胞・マトリックス間の接着分子を説明できる。 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (5) 神経系 *③交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。 *⑧神経の活動電位の発生とその伝播の機序を説明できる。 C-2-3) - (8) 内分泌系</p>	平塚 浩一 竹内 麗理 加藤 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/12/21 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (生化学・生理学)	*①各内分泌器官の構造と機能およびホルモンを説明できる。【ホルモンの特徴と機能、内分泌系と神経系との機能相関を含む。】	平塚 浩一 竹内 麗理 加藤 治
2018/01/11 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科保存学1・歯内療法学)	<p>【授業の一般目標】 歯内療法に関する知識をより深めるために、歯科治療における歯内療法的位置づけを明確にし、診断・治療の概要について統合的に理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯髄炎・根尖性歯周炎の病態について説明できる。 2. 歯髄保存療法について説明できる。 3. 歯髄除去療法について説明できる。 4. 感染根管治療について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 3年次の歯内療法全般 2時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 6 歯髄・根尖性歯周組織疾患の治療 オ 根管処置、感染根管治療法</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 5 成人の歯髄・根尖性歯周組織疾患 イ 歯髄疾患 ウ 根尖性歯周組織疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (2) 歯髄・根尖性歯周組織疾患の診断と治療 *①歯髄・根尖性歯周組織疾患の症状、診断および治療法を説明できる。【検査法を含む。疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む】 *③歯髄・根尖性歯周組織疾患の急性症状の診断と処置方法を説明できる。</p>	神尾 直人
2018/01/18 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科保存学1・歯周治療学)	<p>【授業の一般目標】 歯周疾患の病因と病態を理解し、その病因に対応した歯周病治療を学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 正常歯周組織を図説できる。 2. 歯周疾患の病因を説明できる。 3. 歯肉炎および歯周炎の病態を説明できる。 4. 歯周疾患のリスクファクターを列挙し、それに応じた歯周基本治療を選択、説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 正常歯周組織の図を確認し、歯肉炎および歯周炎における変化も確認する。 臨床歯周病学をもちいて、歯周疾患の病因 (リスクファクター) を確認する。 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 9 歯周病の治療 イ 歯周基本治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 *④歯周疾患の病因と病態を説明できる。 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (3) 歯周疾患の診断と治療 *①歯周疾患の症状を説明できる。【疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む】 *③歯周治療の術式と適応症を説明できる。</p>	中山 洋平
2018/01/25 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科保存学1・保存修復学)	<p>【授業の一般目標】 3年次で学修した保存修復学の知識を深化させるために、硬組織疾患の検査法と診断に基づいて適切な直接・間接修復法を選択し、術式に沿ってその処置に必要な前準備、必要な器具およびその手技の目的について統合的に理解する。</p>	平山 聡司

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/01/25 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科保存学1・ 保存修復学)	<p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯の硬組織疾患の診断に必要な検査法の種類とその目的について説明する。 2. 歯の硬組織疾患の鑑別診断ができる。 3. 歯の硬組織疾患に応じた適切な修復法を選択する。 4. 直接・間接修復法の種類とその術式を説明する。 5. 歯の硬組織疾患の修復に必要な前準備を説明する。 6. 歯の硬組織疾患の修復に必要な器具についてその使用方法を説明する。 7. 歯の硬組織疾患に対する修復処置の目的を説明する。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 歯の硬組織疾患の種類とその原因について コンジットレジン修復に必要な前準備、器具、術式について 間接修復法の窩洞の特徴と術式について 準備学修時間60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 3 歯の硬組織疾患の治療 イ 永久歯の直接修復法</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 2 歯・口腔・顎・顔面の症候 ア 歯、歯髄・根尖歯周組織 歯科医学各論 各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 2 成人の歯の硬組織疾患 ア 齶蝕 ウ 歯の損耗 <Tooth Wear> オ 歯の変色・着色 3 歯の硬組織疾患の治療 ウ 永久歯の間接修復法 エ 窩洞形成法 オ 象牙質・歯髄保護法 カ 補修修復 キ 歯の漂白</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 *①歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3)-(1) う蝕およびその他の硬組織疾患の診断と治療 *①う蝕の症状と診断を説明できる。【検査法を含む】 *③tooth wear(酸蝕症、咬耗、摩耗等)の原因、症状、診断および処置を説明できる。 *④MI (Minimal Intervention)に基づく歯科治療の意義、臨床的対応を説明できる。 *⑤生活歯の変色の原因、種類および処置を説明できる。 *⑥う蝕およびその他の硬組織疾患に対する歯冠修復の臨床的意義を説明できる。 *⑦修復材料と修復法の適応を説明できる。 *⑧修復に必要な前処置の目的と意義を説明できる。 *⑨う蝕およびその他の硬組織疾患の診察、検査および診断ができる。</p>	平山 聡司
2018/02/01 (木) 1時限 09:00～10:30	平常試験	<p>【授業の一般目標】 15回の講義内容に対する理解度の確認</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 MCQ試験、301教室</p> <p>【学修方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p>	久山 佳代 末光 正昌 齋藤 美雪